

いなむら市長の

「ひと咲き まち咲き あまがさき」

2月27日(火) 放送分

放送時間 8:00～、12:45～、16:00～

再放送 3/1(木) 8:00～、12:45～、16:00～
3/3(土)、3/4(日) 17:00～

テーマ 「小田高の魅力紹介」
(県立尼崎小田高等学校放送部)

<市長> 皆さん、こんにちは。尼崎市長の稲村です。今回も、元気いっぱい、市内の高校生の皆さんによる番組をお楽しみいただきましょう。それではさっそくスタートです。どうぞ！

<全員> こんにちは！兵庫県立尼崎小田高等学校 放送部です！

<加治屋> お送りしていくのは朗読担当の2年加治屋早世と！

<佐藤> 同じく朗読担当の2年佐藤愛佳理と！

<後藤> アナウンス担当の2年後藤優衣香と！

<高橋> 同じくアナウンス担当の2年高橋珠里です！小田高の魅力をどどーんと紹介していくぞー！

<全員> おー！

<高橋> では早速、コホン。小田高には学科が3つあります！

<加治屋> 普通科と！

<佐藤> 国際探求学科と！

<後藤> サイエンスリサーチ科です！

<高橋> 普通科の中には、看護医療・健康類型もあります！

<加治屋> 意外と多いもんやなあ。

<佐藤> 兵庫県内で専門学科が2つあるのは小田高だけらしいで！

<後藤> そうなん！？初めて知ったわ～。

<高橋> 小田高すごいなあ。

<佐藤> でも今回は時間の都合上、看護医療・健康類型と、普通科の紹介だけです！

<3人> え～！？

<加治屋> 専門学科の詳しい説明を聞きたい人は、5月・8月・11月のオープンハイスクールに来てくださいね！

<後藤> それでは！看護医療・健康類型と普通科の魅力を先生方へのインタビューをもとに、質問形式で紹介していきます！

<佐藤> インタビュアーは私、佐藤愛佳理がつとめさせていただきます！

<佐藤> では始めに、看護医療・健康類型について紹介します！この類型は、看護医療系と健康系にわかれています。まずは、看護医療系の紹介です。

<高橋> 紹介するのは、高橋珠里です。

<佐藤> 看護医療系では、どんなことを学ぶんですか？

<高橋> ここでは、将来医療職に就くための『土台作り』について学びます。土台とは、想像力や、コミュニケーション能力、仲間と協力して何かを成し遂げる力のことです。こうした能力がないと、医療に関わる人としては成功しません。なので、そういった能力を高校時代に身につけて、大学や専門学校ですぐに専門教育を受けられるように学びます。この学科で学んでも看護師の資格など取れないので注意してください。

<佐藤> 教育目標は何ですか？

<高橋> 『喋る、活動する、リーダーシップをとる』の3つです。人の話を聞くだけでぼーっとしているのでは、将来活躍できません。活発に自分の意見を言って行動したり、仲間と協力して何かをすることが大事です。

<佐藤> 看護医療系だけの行事はありますか？

<高橋> 普通科とは別に、1月に探究応用の発表会を行っています。今年は1月27日にハーティ21を借りて開催しました。他にも、震災募金やがんの子供たちを助けるための募金活動も積極的に行っています。

<佐藤> 看護医療系の特化しているところは何ですか？

<高橋> グループワークです。今、医療現場では、チームで働くことが求められています。でも最近の高校生は、チームを組んで議論を交わすことが苦手です。自分と全く違う意見の人と出会って、そこで議論を交わすことで物事を多面的に捉えることができます。『自分の思いを言ってもいいよ。違う所は違う、同じ所は同じ。そうやって問題の解決を目指していこう』ということを意識しています。

<佐藤> 看護医療系で身につくことは何ですか？

<高橋> 対話する力です。対話から逃げてしまえば、患者さんとの話もできないし、同僚との話もできないし、チーム医療もできません。なので、看護医療系の生徒は対話する力を身につけていきます。

<佐藤> 最後に、どんな職業に就きたい人にオススメですか？

<高橋> 医療職に就きたい人におすすめです。でも、途中で進路が変わっても、コミュニケー

ション能力や仲間と協力する力はどの職業でも必要なもので、無駄になることはありません。実際に、今年の3年生で就職する生徒がいますよ。

<佐藤> なるほど！ありがとうございました！

<佐藤> 次は、健康系について紹介します。

<加治屋> 紹介するのは、加治屋早世です。

<佐藤> 看護医療系と健康系は何が違うんですか？

<加治屋> 看護医療系は、将来看護師や助産師など医療系に進みたい人が集まります。健康系は主に、柔道整復師やアスレチックトレーナーなど、スポーツに関わりたい職業を目指している生徒が集まってきます。

<佐藤> 学ぶ内容は違いますか？

<加治屋> 違います。健康系はスポーツトレーナーや体育教師を目指す人が多いです。例えば2年生では『スポーツ科学基礎』という科目を学びます。看護医療系と健康系のどちらに進むかは、1年生の2学期に選択科目を選ぶときに決めてもらいます。

<佐藤> 教育目標は何ですか？

<加治屋> 話す力・コミュニケーション能力・前に踏み出す力・主体性といった『社会人基礎力』と呼ばれるものを身につけることです。社会人になって役に立つような資質・態度・能力を磨いていくことを教育目標にしています。

<佐藤> 健康系で特化していることは何ですか？

<加治屋> 地域の方と交流することです。例えば、柔道整復師の有名な先生を招いて施術を目の前でしてもらうことがあります。また、幼稚園の園児を招いた運動会を企画・運営したり、地域の高齢者を招いてグラウンドゴルフ大会を開催したこともありました。このような『地域交流型』が、特化しているところです。

<佐藤> 健康系で伸ばせる力って何ですか？

<加治屋> コミュニケーション能力や、マネジメント力です。

<佐藤> このタイプのいいところって何ですか？

<加治屋> プロに直接話を聞ける点です。各方面の企業の方、大学の野球の監督、元プロバスケットボール選手やその経営者などに来ていただいたことがあります。スポーツをする人、見る人、支える人、色々な人がいる中で、スポーツに関わる仕事はこんなにあるんだよということを知ってもらえたらいいと思います。

<佐藤> 最後に、どんな職業に就きたい人にオススメですか？

<加治屋> 中学校や高校の保健体育の先生、アスレチックトレーナー、柔道整復師、消防士、警察官などを目指している人です。明るくて、リーダーシップを発揮できる人に特にオススメです。

<佐藤> なるほど！ありがとうございました！

<佐藤> 最後に、普通科について紹介します！

<後藤> 紹介するのは、後藤優衣香です。

<佐藤> 学年の生徒は何人いるんですか？

<後藤> 一般入試で入ってきた生徒が204人。特色選抜で入ってきた生徒が36人。合計240人が普通科の生徒です。

<佐藤> 文系・理系はそれぞれ何クラスありますか？

<後藤> 学年によって違いますが、だいたい文系が4クラス、理系が1クラスです。文系と理系が同じクラスになることもあります。

<佐藤> 普通科の教育目標は何ですか？

<後藤> 普通科には色々な目標を持った生徒が来るので、その色々な進路目標に対応していくことが教育目標です。そして、多様性を大事にするようにしています。

<佐藤> 小田高生の特徴はありますか？

<後藤> 真面目で、明るくて、自分が大事だと思ったことにきちんと取り組もうとするところが特徴です。いい加減にしてしまうのではなく、きちんとすることの大切さを知っている生徒が多いです。

<佐藤> 小田高にしかない授業ってありますか？

<後藤> あります。例えば看護医療・健康類型は、『看護医療基礎』『栄養学基礎』『スポーツマネジメント』などがあります。文系では『時事問題』『ライフデザイン』『生物探究』『日本史探究』などがあります。これらは、小田高の先生が『生徒にこういったことを勉強してほしい』と思って作った独自の科目です。

<佐藤> 小田高にしかない行事はありますか？

<後藤> 普通科の生徒が探究活動で学んだことを発表する『小田高リサーチ生徒研究発表会』があり、主に2年生の生徒が発表します。普通科の生徒、そして他の学科の生徒が1年かけてポスターを作って、発表会を行います。代表に選ばれた生徒は、関西国際大学で発表することができます。

<佐藤> 探究活動をすることで、何かメリットはありますか？

<後藤> もちろんあります。自分で調べたことを自分の言葉で人に伝えるということは、いい加減な知識では絶対できないことで、自分で調べたものが言葉になって出てきます。こうした活動をすることで、自信や度胸が身についてきます。そして実際に、小田高の卒業生は、大学や専門学校でリーダーとして動くことができている。小田高での探究活動は、生徒に勇気を与えています。

<佐藤> 大学や専門学校などの進路には役立ちますか？

<後藤> はい。AO入試や推薦入試で面接がある学校がありますが、その中で『探究活動を頑張りました！』と胸を張ることができます。そしてそれが何よりも、自信を持って話せる内容であればあるほど、次の進路への扉が一つ大きく開くと思います。

<佐藤> 部活動について聞かせてください。

<後藤> はい。運動部が16個、文化部が13個あります。部活動も盛んに行われていて、野球部は春の甲子園21世紀枠の推薦校に選ばれました。放送部も全国高等学校総合文化祭予選でラジオドラマ部門佳作、アナウンス部門で入選しました！

<佐藤> 最後に、普通科のアピールポイントを聞かせてください。

<後藤> 小田高には3つの学科がありますが、一番多いのは普通科の生徒です。小田高生全員に言えることですが、一人ひとりがとても個性的で、光り輝いている、そして自分の興味関心を広げていくことができる、それが普通科のアピールポイントです。

<佐藤> なるほど！ありがとうございました！

<佐藤> これで小田高の魅力がたくさん伝わったはず！伝わった人　！

<3人> はい！

<加治屋> 小田高に入ってよかった人　！

<3人> はい！

<後藤> たくさんの魅力が詰まっている尼崎小田高校に、みなさんぜひ来てください！

<高橋> 放送部員も

<全員> 待ってまーす！

<市長> いかがでしたか？ それでは、次回の放送もお楽しみに！

以 上